



展示室では壁面展示ケースに日本刀が展示され、ベース照明には3000Kのダウンライト、刀剣には3000Kの特注フード付高演色調光スポットライトが用いられている

## 刀剣博物館

THE JAPANESE SWORD MUSEUM

LEDでは表現できないとされてきた日本刀の「見え」を実現した博物館  
 刀剣博物館は、1968年に渋谷区代々木に開設されて以降、長きにわたって日本刀の保存・公開を行ってきたが、東日本大震災を契機に建物の老朽化が課題となり移転計画が浮上。2018年、新しい刀剣博物館が墨田区旧安田庭園内にあった両国公会堂跡地に建設された。1階はカフェやショップなどが設けられた地域に開かれた空間、3階が日本刀展示室となっている。移転にあたって課題となっていたのは日本刀鑑賞のための照明。白熱灯や蛍光灯に代わって普及を始めたLEDでは、刀身における地鉄の肌合いや

刃文、刃境・刃中の微妙な景色などが見えない点だった。学芸員の久保恭子氏は、「日本刀展示へのスポット照明は『見え』に関して言えば白熱灯の光が最適だと信じ、演色性を考えると紫色励起白色LED<sup>※1</sup>に期待を寄せるしかないと考えていたが最終的にはパナソニックの青色励起LED<sup>※2</sup>スポットライトを採用。その理由は、年齢層の異なる学芸員が一致して『自然な光』と判断したため。演色評価数(Ra)は他のLEDと変わらないのに、見え方は明らかに異なる。これまでの評価軸とは異なる指標があるのではないか。今後の美術館・博物館の次世代照明基準に関する指針を待ちたい」と語る。

※1 紫色励起LED:光源が紫色ダイオードのLED。赤色の演色性に優れる  
 ※2 青色励起LED:光源が青色ダイオードのLED。高効率・長寿命

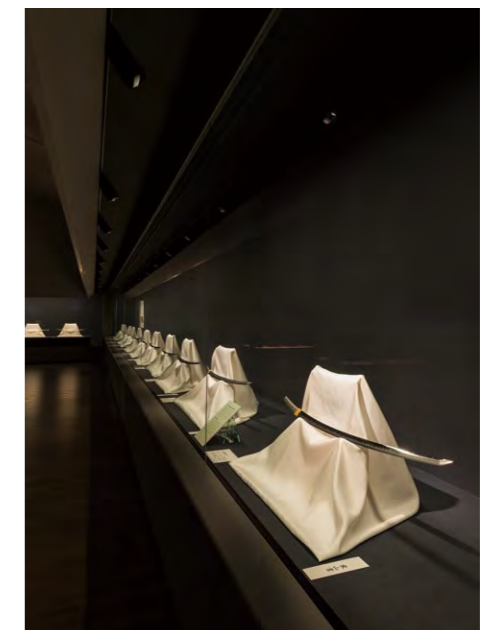


### 刀剣博物館

所在地/東京都墨田区横網  
 施主/公益財団法人 日本美術刀剣保存協会  
 設計/株式会社横総合計画事務所  
 施工/株式会社戸田建設  
 電気工事/ダイダン株式会社  
 ケース工事/コクヨ株式会社  
 竣工/2018年1月



刀身の地鉄はベース照明による面照射。刃文、刃境・刃中の微妙な景色はスポットライトで表現



ケース外から特注フード付高演色調光スポットライトで刀剣を照射

#### 主な設備

- 特注フード付高演色調光スポットライト
- 特注アップライト ● ダウンライト

ウェブサイトでも  
 ご覧いただけます

